

あかしびと

第 60 号

2011. 4. 15

日本バプテスト同盟 金沢文庫教会

天国への凱旋

白根 新治

「終わり良ければ全て良し」とはシェクスピアの言葉だが、自分自身の晩年を迎えて考えさせられている。私は、昨年続けて掛け替えの無い二人の人物を天に送った。一人は生涯の伴侶を約束した妻で、ダイヤモンド婚を子供達の手で祝ってもらった人物である。もう一人は妻の妹である。妻の家庭は両親ともキリスト教の伝道者であり、まことに信仰深い環境であった。この家で二人は成長していった。

その後私が田浦教会の牧師になったとき、羽山伝道師の仲介で紹介された有能な教会青年からプロポーズされて妹は主によって結ばれた。ところが驚いたことに秀才の群れの家庭に育った青年も旧姓をなならずまた白根姓をなしたのである。何が魅力であったのか私には分からない。ただ青年の家庭には小さい弟妹が多かったのに母親が天に召されていた。妹は頑健ではない、そのため悩んだのであろう。しかし祈って自ら決断し結婚した。今その弟妹は立派に成長し皆深く感謝している。

目次	
天国への凱旋……………	1
「あかしびと」復刊について……………	2
中山 将太郎……………	3
私の信仰生活への道のり……………	3
星野 浦男……………	4
感謝です、感謝です……………	4
中川 澄子……………	5
十字架と復活……………	5
白根 義輝……………	6
主と共に……………	6
日高 政恵……………	7
神に護られて……………	7
町田 昭子……………	8
編集後記……………	8



内村鑑三の「後世への最大遺物」という本の中に後世に遺すべき物としてまず土木事業のよ
うな事業を遺す。また思想を遺す。例えば頼山陽の「日本史」
など、そして私にはそんな才能などないという人には「高尚な
生涯を送り」それを遺す事であ
ると。

私は妻と妹が第三番目の高尚な生涯を立派に走り抜いた事を認めたい。妻は貧しい牧師をして
いる私を助け、自ら幼稚園の教諭次いで小学校教諭として働
き、教会堂建設のために休暇を返上して働き、悩める者の相談
に応じていた姿が昨日のように思い出される。

晩年脚が悪くなった口数の少ない妹が、重いゴミ袋を背負って急な坂道を、祈りながら歩いて
いる姿を想像すると涙が出てくる。弱身に鞭打って、実母にか
わってその責任を果たした事を思うと感動に満たされる。昨
年クリスマス直前、妹の告別式の終わりに、司式者が万歳三唱

をしましょうと参加者に要請した。初めての人は驚いたことだらう。これが実施された。

内村鑑三は娘ルツ子が19歳で召天した時、墓の中の棺に手にもつた土を投げ入れながら「ルツ子さん万歳」と力強く叫んだ。その時、そこに参列していた矢内原忠雄は強いショックを受けた。「キリスト教を信じるという
ことは大変なことだ」と。しか
し矢内原はこれを契機に深い信
仰に入っていく。天国に入る準備を
一高の学生の時から始めるのである。

私は妻に助けられ世話になつたが、妻に何もしてやれなかつた。しかし、教会の女性会で中山婦人から「白根さん、今度生まれ変わってこの世にきたら誰と結婚しますか」と問われて、妻は即座に「今の主人と結婚します」と答えたと知らされた。これを聞いて驚いた。着物、洋服などあまり買って上げた事がないのに、何一つ不平も言わず大切な三人の子供を遺して天に

凱旋していったからである。

間もなくイースターを迎える。十字架の上で、この私の罪のため
に死にたまひ、復活して死に勝利された主に心を馳せ、心の底からハレルヤと叫び、喜び踊

りたい。そして、やがて来るべき最後の時、天国への凱旋を祈りつつ万歳を叫びながらこの世の終わりを全うして新しい世界に入りたい。

「あかしびと」復刊のつとめ

中山 将太郎

印刷所の都合で途絶えた、文庫教会の「あかしびと」が復活した。こんな嬉しいことはない。羅馬書十章十節に「人は心に信じて義とされ、口で告白して救われる」とあるように、「あかしびと」は、私たちの信仰告白の場であり、今後とも途絶えることのないようにしたい。この機会に、文庫教会のリバイバルを果たしたい。今の教会を見てみると、どうも熱くもなく、冷たくもない、生温い信仰状態であり、この機に信仰の復活を果たしたい。こんな時「あかしびと」

は大事なツールの一つであり、全教会員、責任を以って、季刊から月間に向けて、育成したい。どうぞ聖霊が共に在まし、信徒一人ひとりの信仰を導いていただきたい。



私の信仰生活への道のり

星野 浦男

古い話になりますが今から58年前に、18才で生まれた故郷の群馬県前橋市より川崎市に就職して出て来ました。当時こちらには友人及び知人等一人も無く、まして太平洋戦争後の復興時代で食料も配給の時代で苦勞してました。

私の父母と兄は救世軍の会員でした。母は常々「見ないのに信じる人は幸いである」ヨハネ20章29節という言葉を出し、目に見えない神を信じる事が信仰だから、私たちの救い主イエスキリストを覚えて救世軍に行きなさいと言っておりました。その縁で救世軍の横浜小隊に入隊しました。三年間位、救世軍の活動に参会していましたが、その後の日本の高度成長期で休日も無く、国内及び海外のプラント工事現場を飛び回り、通算27年間家庭の事も顧みない仕事

オンリーの生活でした。

その後会社にて、本社勤務になり、人並みに休日には休めるようになりました。ちょうどそのころ私の義弟である大井牧師から聖書と賛美歌を頂きまして、お兄さん教会にきませんか誘われました。そして当時大井牧師が伝道してました、聖路教会に家内と共に通い始めました。この時に神さまの導きがあったのだなど、今になって思います。その後大井牧師が金沢文庫教会に移りましたので、家内と共に金沢文庫教会の礼拝に通うようになりました。金沢文庫教会では、白根牧師、中山先生と説教者に恵まれ、又、教会会員の方々に大変お世話になってます。平成21年のイースターに白根牧師、中山先生ご夫妻、大井夫人などに背中をおされ、皆様の多くの祈りに支えられて、家

内とと共にバプテスマを受けさせていただき、心身共に喜びに満たされました。大変感謝いたしております。

もうすぐ喜寿を迎える私たち夫婦ですが、私は現在も現役で忙しい仕事をしています。夫婦共に神を賞賛し我等の救い主、復活を通して生きておられるイエスキリストを信じてゆきたい

と思います。また、中山先生より戴いた「信仰生活は馬拉ソンです。100メートル競走ではありません。」という言葉をお忘れずに教会の皆さまと共に、今後共神を賛美する生活を送って行きたいと思っております。

感謝です、感謝です。

中川 澄子

今日も礼拝の席にお招き下さり感謝です。

お説教が私の耳に手にドンドン飛び込んできます。感謝です。

「アーメン」手にあるボールペンが忙しく動きます。赤になったり青になったり、後で見ると赤い字は矢となって、再び私に飛び込んできます。感謝です。

神と我は一直線に繋がれている

神と我の間には何人も入らぬなまじり

白根牧師のお声が聞こえてきます
中山先生のお声が聞こえてきます
感謝です。

入院中の検査・検査の日々も、健康になった今も、ぬるま湯のようなゆったりとした気分と安心をいただいています。主が常に共にいてリードし支えてくださ

っている実感です。安心です。感謝です。

旧約聖書ヨシヤ記1:5

「一生の間、あなたの行く手に立ちはだかる者はないであろう。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く雄々しくあれ」続いて1:9では「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる」私は苦しいとき、困ったとき、何処に居ても、主に支えていただきました。

昔の事です、わが子をどんな底から救いたかった。祈って祈って北海の地を食事もとれない状態で歩きまわっていました。7日後に解決しました。どんなに感謝しても、感謝しきれません。こんな時にでも、主は、共に祈ってくださる尾添俊幸牧師（当時は北海道、今は京都本町教会の牧師先生）と夜汽車の中で

逢わせてくださいました。斜め向かいの席の方でした。眠っている方がちよつと動きました。私は「牧師先生ですか」と声を掛けてしまいました。眼をあけた方は「そうです。どうして判りましたか」と聞かれたが、答えられなかった。喜びを伝え、小さな声で賛美歌を歌い、お祈りをしてくださいました。全てが主の導き・支え・恵みでした。過ぎた日も今も常に主の御手の中です。安心です。感謝です。

アーメン

いつも喜び 絶えず祈り
どんな事にも 感謝をしなさい
テサロニケ1 5:16



「十字架と復活」

白根 義輝

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に來られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

イースターには、大事な二つの意味があります。今日はもう一度、その意味を考えたいと思います。

この間、先生のうちに赤ちゃんが遊びに來ました。赤ちゃんはかわいいですね。みんなの中にも、小さい弟や妹がいる人もいます。ヨチヨチ歩いたり、「まんま、まんま」とか「ママ」など、ちよつとした言葉を言っただけでも周りの人たちみんなにここに顔になります。寝

ている時も、寝顔を見ているだけで、優しい気持ちにしてくれます。

でも、不思議ですね。それほどかわいい赤ちゃんでも、だんだん悪いことを覚えてきます。赤ちゃん同士が遊んでいても、おもちゃを取りつこしたりします。そのうち、誰にも教わらないのに嘘をついたりします。

聖書に書いてあるとおり、人間は自然に悪いことをしてしまう、罪を犯してしまうことが分かります。

悪いことをしない人間は一人もいません。だから、イエス様がわたしたちの罪のために代わりに十字架にかかって、死んでくださった、これが、一つ目の意味です。

人間は赤ちゃんのうちは、お母さんを初めとして、たくさんのお世話にならなければ生

きていかれません。もちろん赤ちゃんだけでなく、幼稚園児もみんなのような小学生も、お父さんやお母さんなどの家族、大人の人が守ってくれます。大人の人はみんな小学校に行つたことがありますから、小学生のみんなが心配に思うことは、助けてあげることができません。だから、安心して毎日生活できま

すね。では、大人の私たちは誰が守ってくれるのでしょうか？心配なことや困つたことが起きたら、誰が助けてくれるでしょうか？

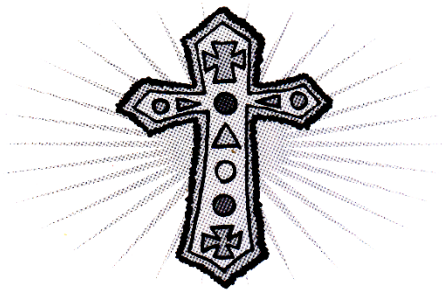
特に、人間が死んだらどうなるのか、死んだあとどうなるのか、どこへ行くのか誰も教えてくれません。死んで生き返つた人がいないから分からないのです。聖書は、イエス様が十字架で殺された後、復活したと教えてくれます。復活というのは、生き返るということです。イエス様は、私たち人間も、自分がしてしまった悪いことを心から神様に「ごめんなさい」と言えば、罪

を赦してくれること、そして、イエス様と同じように天国に行かれると約束してくれました。

これが、二つ目のイースターの大事な意味です。

「十字架と復活」を覚え、そして、マルタさんのように、イエス様が神の子、救い主であると信じ、イエス様に従つて生きる者になりたいと思います。

(小学生低学年礼拝より)



主と共に

日高 政恵

私の育つた家は熱心な信徒でした。子供の頃から家族揃つて仏壇の前でお経を読み、そのあと法話を聞くのが慣わしでした。

そんなある日のこと、友達に誘われて教会へ連れて行つて貰つたのです。キリスト教について何も知らなかつた私でしたが、その時自分を引きつける何かを、心に深く入つて来る何かを強く感じたのです。

のちになつて聖書を学び「光は闇の中に輝いている」という御言葉を知りましたが、この時が正にその瞬間だつたと思います。何も分らないまま、ただ信じますと告白し、導いて下さる方のお勧めもあつて受洗しました。

その後、大きな試練を何度も経験し、良い事よりも辛いことの方が多し私の人生でしたが「主と共にいて下さる。重荷を共に背負つて下さる」を心の支え

にして生きて来ました。主と共に大きな試練を乗り越えた時の喜び……それは云い表すことの出来ない大きな喜びでした。現在、私は歩けない状態ですがそれでも「主と共に辛い思いをして下さっている」と信じ、救われています。

白根牧師をはじめ教会の皆様が私のために祈つて下さり、親切にして下さいますこと感謝しています。主にあつて皆が兄弟姉妹であることを実感しています。今、何も御奉仕の出来ませんが、何も申し訳なく思っていますが、何か私にも出来る小さな事をそのうちきつと神様がお与下さると信じて、その時をお待ちしています。

神に護られて

町田 昭子

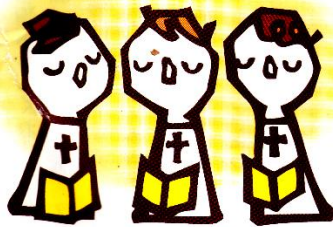
二〇〇一年九月十一日、あのニューヨーク同時テロから十年。あの日、次男は、ニューヨーク・マンハッタンの自宅で、風邪の義務を休んでいました。もし、そうでなかったら、いつもの様に、オフィスに出かけて行ったことでしょう。そうしたら、今はありません。今、息子は、二人の子どもに恵まれ周りの人達に支えられて、元気に働いております。

又、長男は、車ごと川へ落ちましたが、九死に一生を得ました。ドバイでは、工事現場で上司と話していたら、猛スピードで走って来た車に、上司が轢かれて亡くなられました。隣にいた長男は大した怪我もせず助かりました。お陰様で、と言うしか言葉が出て来なかったのを、今でも覚えています。

神は、信仰の薄い私にさえも、

いえ、だからでしょうか。こんな奇跡を起こして下さいました。どんなに感謝しても、しきれないと思います。

世界中の人達が、平和に過ごせます様に、平安な心でいられます様に、毎日、祈り過ぎたと思います。生かされていることに感謝して！



平常例会案内

毎週日曜日

午前 9:00 教会学校
// 10:30 礼拝

毎週水曜日

午前10:30 聖書研究会
祈禱会



編者後記

東北関東太平洋沿岸地方の地震災害で、難に遭われたかたがたに、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興が行われますようにと祈ります。

しばらく休刊してしました「あかしびと」を、主の復活を記念して復刊いたします。今回は金沢文庫教会に属する兄弟姉妹が体験された神の恵みの証しが主体です。この小さなブックレットに盛られた神の愛が一人でも多くの人につたわり、悲しみや悩みのなかにある人に、真の喜びが、希望のない人には光り輝く希望が、与えられるようにと願っています。(白根)

発行日 二〇一一年四月十五日

発行所 日本バプテスト
金沢文庫教会

発行者 牧師 白根 新治

印刷所 (株)高陽印刷所

住所 横浜市南区白妙町3-39
電話 〇四五-二五一-四八三二